

2014

夏

鳥取県智頭

山口県祝島

滋賀県新旭
(生水の郷・針江)

四万十川

に飛びこめ!!!



大阪自然教室

〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36-308号

Tel: 06-6372-1561 (木曜夕方のみ)

Web: <http://osakashizen.org/>

ひん やり川で、

「智頭自然教室」募集要項

日 程：第一期 8月2日(朝)～8月6日(夕)

第二期 8月6日(朝)～8月10日(夕)

募集対象：小二～小六

募集定員：各期24名(先着順)

募集期間：6月15日～7月14日

参加費：¥29,000-(含登録料2,000)

宿泊場所：鳥取県智頭町那岐地区の民家



ひとあばれ

楽しい夏休み、暑いからといってクーラーのきいた部屋でボーッとしているのはもったいない！さあ、智頭に行って遊ぼうよ！！

晴れた日には冷たい川で大はしゃぎ。タイヤの浮き輪に乗って、急流すべりをするのは最高だね！それに、高い岩から勢いよく飛び込むのもスリル満点、とても気持ちがいい！魚を見つけたら、頑張ってみよう。もし捕まえたなら君はヒーロー！雨が降ってもお楽しみはあるよ。竹細工や小枝細工のクラフトにチャレンジしよう。家の人へのおみやげに作るのもよし、自分のために作ってもいい。いくつ作るかは君のアイディア次第。

仲間とリーダーと遊んでたら、あつという間に時間はすぎていく。遊びつかれたら、おいしいご飯をもりもり食べよう。だれだい！

「野菜はキレイだ！」なんていっている子は。近所のおばさんたちにいただいた、とれとれの野菜は都会のスーパーの野菜とはひと味もふた味もちがうんだよ。そうそう、今リーダーたちも智頭でお米や野菜をいっぱい作っているんだ。しかし、田んぼや畑の草取りはとっても大変！ぜひ、君にも手伝ってほしいな。ひと汗かいたら、君が畑でとったキュウリやトマトを丸かじりしよう！

夜はカエルの鳴き声を聞きながら、夜空に散らばる星をながめて一日の疲れをいやそう。流れ星を見られなくても、星空をながめているだけで幸せさ！それくらい智頭の星はきれいなんだ。

自然がいっぱいの智頭には、最高の四泊五日が待っている。仲間とリーダーたちと一緒に、ステキな夏の思い出を作ろうよ！

命めぐる川端のある暮らし

「生水の郷自然教室」募集要項

日 程：7月26日(朝)～7月29日(夕)

募集対象：小三～小六

募集定員：18名(先着順)

募集期間：6月15日～7月14日

参加費：¥23,000-(含登録料2,000)

宿泊場所：滋賀県高島市新旭町針江区公民館



琵琶湖の西にある生^{しょうず}水^{さと}の郷^{はりえ}・針江では水があちこちで湧き出ているので家々には「川端^{かぼた}」がある。湧き出した水が最初にたまる壺池^{つぼいけ}の水は飲み水や顔を洗うのに使う。ここで冷やしたトマトやキュウリは格別においしい！壺池からあふれ出た水がたまる端池^{はたいけ}では、お米を洗ったり食後の洗いものをする。ご飯つぶや野菜くずは端池^{はたいけ}で飼われているコイが食べてくれる。さらに端池^{はたいけ}は水路とを通過して針江大川となり、琵琶湖へと流れ込む。

針江大川にはきれいな水でしか育たない梅花藻の白くて可愛い花がゆれて、琵琶湖からのぼってきた小アユの群れが泳いでいる。みんなで力を合わせて追い込むと、反対側のアミにはもうアユが入ってる！タイミング良くアミをあげないと、逃げられてしまうぞ。そうそう針江大川の藻の中に手を入れて、大物の魚の手づかみにも挑戦しよう。指先をかすめた魚の感触におどろかないでサッとつかめるかな？そう、とった魚を全部さばいて食べるのが針江でのお約束。おもしろいほど魚がとれるからといって、とりっぱなしはナシだ。魚をさばくのは、最初はちょっと勇気がいるかな？

針江では、昔から年4回針江大川や河口の舟着き場の藻刈りをし、冬は琵琶湖湖畔のヨシ刈りをして環境を守っている。毎年行っている自然教室の分担場所はお寺の池。今年も池に侵入した外来種・オオカナダモをとるのをお手伝いします。

自分たちでとった魚と野菜、生水の水で炊いたご飯を食べたら、もう幸せいっぱい！毎日楽しいことがたくさん待っている。

真っ赤な太陽

青い空

「祝島自然教室」募集要項

日程：8月17日(朝)～8月21日(夕)

募集対象：小四～小六

募集定員：18名(先着順)

募集期間：6月24日～7月14日

参加費：¥39,000-(含登録料2,000)

宿泊場所：山口県上関町祝島 祝島公民館



照りつける太陽とキラキラ光る海、もちろん、泳ぐしかない。水中ゴーグルを持って、さあ、海に出かけよう！潮が満ちている時には、東の波止場の高い防波堤から飛び込もう！ちょっと高さがあるから最初は勇気があるけど、仲間に励まされて一度飛び込めば、もう病みつきになること間違いなし。引き潮の時は磯に行こう！磯には貝、カニ、ウニ、タコなど、海の生き物がたくさんいるよ。

祝島の集落は北に固まっているけど、足をのばして反対側の三浦湾にも行ってみよう。この海岸は珍しい粒ぞろいの小石の浜。三浦湾に面した棚田は、人間の背よりも高く積まれた石組の棚田が何段も重なり、本当に天まで昇っているようだ。棚田には耕作をやめた放棄田が増えているが、そこの氏本農園に行ってみよう。氏本さんは放棄田にブタを放して、畑に復元している。ブタさんたちの働きぶりをぜひ見てみよう。(氏本さんは豚田兵と呼んでいる)

海で遊ぶことに疲れたら、「未来に残したい漁村の文化遺産」に選ばれた集落の中を探検しに行こう！台風の強い風をさけるため、瓦は白い漆喰で固められ、「練塀」と呼ばれる分厚い石垣に囲まれた独特の家々と海とが一体となった風景は、きっと君の心に強く焼き付くはずだ！たっぷり遊んでお腹が空いたら、ご飯の準備をしよう。毎日、食卓には漁師さんから差し入れてもらう新鮮な魚が並ぶ。どうやって食べたらおいしいかな。島のおばさんたちに聞いて、魚のさばき方も教えてもらおう。おばさんたちはスイスイと魚を三枚におろしていく。君にもできるかな？

沈下橋から飛び込もう

「四万十自然教室」募集要項

日程：8月16日(朝)～8月21日(朝)

募集対象：小六～中三(中学生優先)

募集定員：10名

募集期間：6月15日～7月14日

参加費：中学生 ¥48,000-(含登録料)

宿泊場所：高知県四万十市口屋内 口屋内公民館

子供会議：8月3日(日)午後1時半～4時



ジメジメ暑い大阪の夏にめげそうになったら、四万十に行こう！「日本最後の清流」と言われる高知県の四万十川は、そう言われる通り自然がいっぱいで本当にきれいな川だ。

別名「暴れ川」と呼ばれる四万十川が大雨によって増水すると、沈下橋は名前の通り濁流の中に沈下してしまう。その沈下橋からの飛び込みが『四万十』での最高のお楽しみなのだが、2年前から沈下橋は工事中で飛び込みができなかった。工事が終わった今年は、君たちの番だ！橋の上から4メートルくらい下の川面を見ると、あまりにも高くて足がすくんでしまうかもしれない。何回かためらった後、やっとの思いで飛び込みに一度成功すると、二度目からは怖くなくなり、病みつきになること間違いなし！

一日は支流の黒尊川に行きたいね。黒尊川は魚が多く、四万十川よりもっと水が澄んでいるので、水に顔をつけるとすぐに魚を見つけてモリで突ける。浮き輪での急流すべりも気持ちがいいんだよ。他にも、川で漁をしている漁師さんから昔の話を聞いたり、仕掛けを作って川に棲息しているカワエビを捕るのにも挑戦だ！

晩ご飯の後は散歩をしようか。大阪の騒がしい夜とは全然違う。四万十の川音と虫の声、キラキラと輝く満天の星空。そして、漁師さんたちがしている「火振り漁」が見えたら最高だね！

最後の日には朝早く口屋内を出発して、土佐佐賀で海水から天日塩を精製している「あまみ屋」さんを見学させてもらってから、近くの海岸に行って遊び、夜行バスで大阪に戻ってくる。

大阪自然教室 (sinse1973)のこだわりは“異年齢の子どもたちの群れでの育ち”

1973年、大阪の自然保護団体で活動していた20才前後の若者たちが、都市の子どもたちに自然体験の場を提供することを目的に活動を開始しました。会員時代（小学二年～中学三年）を終えた者たちがリーダーの七割ほどを占め、すべての企画・運営がリーダーたちの自己責任によって引き継がれ、今年度は41年目に入りました。

「子どもは異年齢の群れで育つ」をモットーに、こんなことをしているのを学校の先生やおとうさんおかあさんが見たら怒られるだろうな、といったヤンチャな時間と空間を子どもたちと「共に育つ」場として共有し、遊ぶ施設や道具がなくても仲間たちと創意工夫をして遊べばおもしろいぞ、と子どもたちと自然の中で遊んできました。自然を頭で理解するのではなく、自然のおもしろさ・楽しさを五感をフル動員して体感して欲しい、と願って活動を続けてきました。

もう一つ、命を支える第一次産業の農業や林業や漁業にこだわって企画を立てています。宿泊企画も野外活動センターや少年自然の家などの既存の施設は一切使わず、自然の豊かな所＝過疎地の山間地や離島に住むおじさんおばさんたちの懐に飛び込み、農作業や山仕事などの生産活動をしている横におじゃまし、おじさんおばさんたちにかまってもらいながら長年継続して同じ場所で活動してきました。活動場所が「こんにちは」と訪れる観光地でなく、子どもたちは「ただいま」と言い、おじさんおばさんたちからは「お帰り」「今度はいつ帰ってくるの」と言ってもらえる“ふるさと”に、と願って企画しています。



大阪自然教室の夏企画の特徴は、小規模であること、そして活動地

大阪自然教室のこだわりから立案された企画の特徴は、企画は10～24名と小規模であること。また、基本的に子どもと行動するリーダーは子ども3・4名に1名、さらに賄いなど活動を支えるリーダーが配置され、初めての子どもに対してもきめ細かく対応できる体制です。

なんといっても最大の特徴は活動地です。現在、山間地や離島では急速に過疎化・高齢化が進んでいますが、いずれの地も住民が自らの力で地域を活性化させようという頑張っている所ばかりです。

特に、上関原発が沖合3キロの目の前に計画された祝島では、島の豊かな自然と原発は共存しないと、巨額の原発補償金を拒否して31年間島ぐるみで反対運動を続けています。ここ数年、国の後押しを受けた中国電力は、度々アセスメント調査を強行しようとしてきましたが、その度に祝島の人たちははね返してきました。3年前の夏に訪れた時にも、中国電力は調査をしようとしており、それを阻止するため猛暑の炎天下の中で交代で座り込みをされている最中でしたが快く迎えていただき、例年どおり実施することができました。



写真家今森光彦さんが撮影したNHKのドキュメンタリー「里山・命めぐる水辺」で注目をあびた生水の郷・針江の人たちは「生水の郷委員会」を立ち上げ、行政に頼らず環境保全活動や地域づくりに取り組んで10周年を迎えた今年、環境庁のエコツーリズム大賞を受賞しています。

鳥取県智頭町は集落住民が全員参加して立ち上げた集落振興協議会によって地域活性化を実行していく¹/0運動（ゼロぶんのイチうんどう：無から有を生み出す集落活動）や百人委員会（公募で参加した町民たちが検討した内容を町の施策に反映させる）などで注目を集めています。大阪自然教室は交流を通してこれらの人たちと連携し、地域の活性化に少しでも役に立てたらと考えています。

夏企画の問い合わせは、西村（090-1149-4326）までご連絡ください。

「智頭自然教室」「祝島自然教室」「生水の郷自然教室」は子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成事業です

おかあさん・おとうさんへ

同封しました申込用紙（兼健康調査票）に必要な事項を漏れなく御記入のうえ事務所までお送りください。受け付けましたら、集合・解散の場所と時間、持ち物や参加費用の振り込みについての案内をお送りします。また、複数の企画に参加することも可とします。なお、参加費には保険代などに充てる登録料（2,000円）が含まれています。月例会会員の方にはすでに支払っていただいていますので、登録料を省いた金額となります。

今年も“智頭”は中学生が参加できた“高学年班”はないので、中学生対象の企画は“四万十”のみとなります。まだ“四万十”には自信がなく、“祝島”にも参加したことのない中学生は、“祝島”に参加できることとします。

“^{ちづ}智頭自然教室”につつまして

今年で10年目になる“智頭”は、今年も二期間：二班編制となりました。どちらかの期に集中することなくバランスよく実施できたらと思っています。どちらの期でも参加できる方は申込用紙にその旨ご記入ください。どちらに参加していただくかの確定は受付状況を見ながら7月5日までにご返事します。往復は貸切バスを使い実質乗車は2時間半、集合はJR新大阪駅に午前8時30分、解散は同じ新大阪駅に午後5時30分頃の予定です。

“^{いわしま}祝島自然教室”につつまして

25年目となる“祝島”以前は2回目の参加者を断っても6月中に〆切になっていましたが、ここ数年は定員を下回っていますので、体力に自信があるという小三の参加を検討します。（7月5日頃判断）往復とも貸切バスで5時間半の実質乗車。集合はJR新大阪駅に午前8時00分、解散は同じ新大阪駅に午後6時30分頃の予定です。

“^{しょうず さと}生水の郷自然教室”につつまして

NHKなどで度々紹介されている「生水の郷（滋賀県高島市新旭町針江集落）」において、8年目の今年も地元の「生水の郷委員会」の方々に協力していただいて企画の充実を図り、琵琶湖に刺し網を仕掛けて引き上げたり、今年から耕作を始めた畑を活用していきます。今年から規模を拡大しますので、宿泊はこれまでの“内川端”のある“生水の家”から公民館になります。また、集合はJR新大阪駅に午前8時15分、解散は同じ新大阪駅で午後5時30分頃の予定です、往復はJRの電車となります。

“^{しまんと}四万十自然教室”につつまして

“四万十”は打合せ会（子ども会議）を行います。その日にどうしても参加できない人は、別に設定する予備日に必ず参加してください。「子ども会議」から企画はスタートしますので、「子ども会議」への参加は遠方の方以外は絶対条件です。“四万十”は中学生のステップアップの企画として位置づけ、春の“ぶらり旅”や冬の“不自由教室”につなげていくための企画です。リーダーの数も少なく、これまでに経験を積んだ中学生を優先し、自分たちの力でやっていってもらいます。小六の参加は中学生の申込を見ながら受け付けていきます。なお、小六の参加費は¥41,000円（登録料を含む）を予定しています。往復ともに高知県須崎までのJRバスを利用し、帰りは夜行バスとなります。集合はJR大阪駅に午前7時、解散は事務所で後片づけをしてから午前10時頃の予定です。

アトピーにつつまして

アトピーの子どもたちが増えてますが、申込用紙の「アレルギーがありますか」の欄に内容と対処について詳しくお書きください。特に除去する食材がある方は必ず連絡下さい。『四万十』の食事は細かい配慮はできそうにありません。“智頭”・“祝島”・“生水の郷”ではベテランのリーダーが食事を作るので、少しでも対応できるように検討しています。しかし、完全な代用食・除去食はできませんし、その程度や内容により、“智頭”ではリーダーの配置によっては参加していただく日程を指定する場合があります。いずれにしても、事前に相談しながらすすめていきたいと思っています。

夏企画の問い合わせは、西村（090-1149-4326）までご連絡ください。